かぐや姫を和紙人形で創作

蓼原の入野多賀子さんは趣味で和紙人形をつくっています。最近の作品は「かぐや姫」。上品なお顔に和紙の持つやわらかさがマッチしています。つくり方はまったくの自己流。和紙を自分で染め、髪は一本一本こよってつくるなど手が込んでいます。入野さんは「次は山部赤人の田子の浦をイメージする人形をつくりたい」と意欲的。

入野多賀子さん

「うわー上手」今泉小でミニ日中友好展

今泉小学校の工作展示室で、ミニ日中友好展が開かれています。

作品は富士市と友好都市提携を進めている中国浙江省嘉興市の小学生が書いた習字など約五十点。昨年訪中した富士市の美術家の皆さんが、記念としてもらってきたものです。習字は先生も子供たちもびっくりするほどの達筆です。

同校では、こちらの作品も中国に送る計画を考えています。

防火作文コンクールで市長賞を受賞

春の火災予防運動が三月十三日まで行われていますが、富士南中一年の高橋史江さんは、防火作文コンクールで市長賞を受賞しました。

作文は小学校六年生のとき近くで起こった火事のことをもとに、火の歴史や消防署員の話などから防火についての注意を呼びかけたものです。高橋さんは「作文の書き直しに日曜日も学校へ来たので苦労しました。でも、その分余計にうれしいです」とにっこり。

高橋史江さん

◁トイレットペーパーなどは日本一

日本一の紙のまち

富士市は何といっても紙の都、日本一の紙の町です。

昭和61年のパルプ・紙の製造品出荷額等は4,974億9,601万円で、市全体の出荷額等の34.9%を占めています。パルプ・紙の工場は333社で、働く人は1万4,898人になります。

昭和60年中に市内で生産された紙の総生産量は292万8,700トンで、全国生産量の14.3%を占めています。中でも、家庭用薄葉紙（ちり紙・トイレットペーパー・ティッシュペーパー）のシェアは高く、27万4,726トンで全国生産量の28.1%になっています。特にトイレットペーパーの生産量は19万6,864トンで、全国の38.1%を占めています。

おじゃましますよ

民話を紙芝居に

婦人民話の会ひまわり

子供たちをワクワクさせる紙芝居。「婦人民話の会ひまわり」は、紙芝居を通して子供たちに新鮮な感動を与えてきました。三月末には紙芝居をまとめた本も出します。大忙しの作業中におじゃましました。

「ディアナ号のいかり」や「かりがね堤」などの話は、最近よく話題になるので御存知の人も多いと思います。

こうした郷土の民話を大型紙芝居にし、地域の子供たちやお年寄りに読み聞かせを行っているのが「婦人民話の会ひまわり」です。

昭和五十五年に駅北地区の同年代のお母さん方が、郷土史家鈴木富男先生の話を聞いたのをきっかけにして集まりました。といっても、初めはみんな素人。現地取材や脚本づくり、色塗り、語り方などを試行錯誤しながらも、かぶりつきで見る子供たちの輝く目に励まされて続けてきました。

会員は七人。月二回、半日ぐらい、代表の柴田実枝子さんの家に集まってにぎやかに作業を行っています。

メンバーのだんなさんが作成した木枠に入れ、地域の行事、福祉まつりなどに参加、公演は三十回を超えています。こうした実績から、昨年は積善会の表彰も受けました。

現在、ひまわりは、これまでの活動の集大成として、紙芝居をもとにした絵入りの本をつくっています。一冊五百円程度で千部つくり、三月下旬に発行の予定です。問い合わせは、柴田実枝子さん☎六一―八三五へ。

◁写真左から鳥居さん、柴田さん、江藤さん、佐野さん